令和５年９月１７日

令和５年度 都川水の里公園・稲作体験講座【第５回】

第 5 回の活動は、9 月 3 日に稲刈りして乾燥させた稲穂の脱穀作業、10 組 30 人の方が参加しました。例年にない厳しい残暑の中での作業となりました。

9 月 8 日に台風 13 号の接近に伴う豪雨で支川都川が氾濫して、田んぼに大量の雨水が流れ込みおだに架けた稲穂が一部水につかりました。翌 9 月 9 日にボランティアの人達と運営事務局の 3 人が集まり、約 2 時間かけておだを直し稲穂をかけ直ししました。

初めに、龍崎先生から脱穀作業の方法について説明があり、その後、田んぼに移動して脱穀作業を始めました。先ず、田んぼにおだ架けした稲を脱穀場所まで運びます。おだに沿って参加者が 5、6 人並び、バケツリレー方式で道路まで稲を運びました。

脱穀とは、乾燥させた稲穂から稲籾を落とす作業。江戸時代は「千歯こぎ」という農機具、明治時代は「足踏み式脱穀機」（明治 43 年発明）、現代は「ハーベスター（自動脱穀機）」を使って脱穀を行っています。

今回は、都小学校からお借りした「千歯こぎ」と「足踏み式脱穀機」、体験棟所蔵の「ハーベスター」を使い脱穀作業を体験しました。

「千歯こぎ」は、櫛状に並べられた鉄の歯に稲穂を通し、籾を引っ掛けて分離させる道具です。稲穂を歯に通して引っ張るにはけっこうな力が必要なので、子どもたちには大変な作業だったようです。

「足踏み式脱穀」は、逆Ｖ字型の針金が沢山付いた円筒（こぎ胴）を足で踏んで回転させることによって、稲穂を叩き穂先から籾を落とす道具です。馴れると子どもで楽に脱穀作業ができ、「ガーコン、ガーコン」という音も面白く、何回も体験した子どももいました。

「ハーベスター」は、脱穀と選別までの作業が自動化したとても効率の良い機械です。投入口に稲を入れて後は機械が脱穀し籾とわら屑を選別してくれます。稲を運ぶチェーンに手を挟まれないよう十分な注意が必要です。

参加者とスタッフの共同作業によって 11 時半頃にはすべての脱穀を終えることができました。残暑厳しいなか、大変お疲れさまでした。

 龍崎氏による脱穀の説明	 同左
 おだから稲を外して運ぶ	 同左
 おだから稲を外して運ぶ	 稲束を脱穀場所まで運ぶ
 足踏式脱穀機による脱穀	 同左

 足踏式脱穀機による脱穀	 同左
 千歯こぎによる脱穀	 同左
 ハーベスターによる脱穀	 同左
 ハーベスターによる脱穀	 同左